

# 山梨で展開しうるハンセン病啓発 ～新型コロナウイルス感染症への教訓～

What Leprosy Awareness Can Teach Us: A Case Study from Yamanashi in the  
Post-COVID-19 Era

廣瀬 諒

都留文科大学教養学部地域社会学科 環境社会学ゼミ 4年

## [概要]

ハンセン病はいまや薬によって完治可能となりましたが、かつては治らない病として恐れられ、患者を療養所へ隔離するなど、国全体で患者を差別・偏見にさらしてきました。その反省から、国は差別意識解消と風化防止のため後世に語り継ぐ活動を行っています。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行で感染症への差別・偏見が見られたように、ハンセン病の教訓が活かされているとは言えず、当事者の減少とハンセン病自体の知名度低下は、正しい知識と教訓を伝えるうえで大きな課題です。

山梨県はハンセン病医療に尽力した医師・小川正子の出身地であり、ハンセン病と共にその生涯と功績を紹介する笛吹市春日居郷土館・小川正子記念館があります。本発表では、どのように県民にハンセン病の正しい知識を届けられるのかを明らかにするため、山梨県庁と記念館に行った調査結果を中心に報告します。

[キーワード]ハンセン病、小川正子記念館、国立ハンセン病資料館、差別・偏見、啓発事業

## 1. はじめに

ハンセン病は「らい菌」によって皮膚と神経が侵される感染症である。感染力が非常に弱く、発症も稀であるため、現代の日本では新規感染者はほぼいない。この病気を巡り、1907年から1996年にかけて国主導の隔離政策によって患者は強制的に療養所へ収容され、全国で著しい差別が起こった。現在は早期発見・早期治療で完治可能になったが、長く続いた差別から今も一定数の回復者が故郷に帰ることができずに療養所で暮らす。

厚生労働省(2024)の「ハンセン病問題に係る全国意識調査報告書」では、国民のハンセン病の学習経験や定着率が乏しいと指摘されており、差別的な歴史から学ぶべき状況に反し、その事実がいまや風化しかけているのが現状である。昨今の新型コロナ

ウイルス感染症の流行時にも感染者に対する差別的な言動・行動が見られたように、感染症差別は現代でも十分に起こりうる問題であり、ハンセン病の教訓から我々は自らが差別する側、される側になりえることを「自分事」として捉える必要がある。そこで本発表では、現代におけるハンセン病啓発にはどのような課題があり、どう伝えていくのかについて山梨県のケースに注目して論じた。

山梨県には、ハンセン病医療に携わった医師・小川正子の郷土(旧春日居村、現在の笛吹市春日居町)があり、ハンセン病と小川を紹介する常設展示のある笛吹市春日居郷土館・小川正子記念館が存在する(所在地：山梨県笛吹市春日居町寺本170-1)。郷土館の中に小川正子の展示室があ

り、この一室が小川正子記念館と呼ばれる。公立の郷土館が山梨県の取り組みと合わせて県民に向けてどのような発信が可能かを探る。そのうえで、山梨県を例に現代におけるハンセン病の正しい知識の普及啓発、事実の継承可能性について検討した。

## 2. 研究目的および方法

山梨県のハンセン病啓発の現状と課題、ハンセン病の正しい知識の継承可能性を明らかにすることを目的とした。研究方法としては書籍や論文等、新聞記事を用いて、ハンセン病史や差別偏見撲滅に向けた啓発活動などの先行研究の把握に努めた。

山梨県内のハンセン病啓発の現状と課題の調査にあたり、これらに加えて2025年8月27日に笛吹市教育委員会文化財課へ対面インタビュー、同年11月13日に山梨県福祉保健部健康増進課へ文書ヒアリングを実施した。

## 3. 結果と考察

### (1) 代替手段としての SNS 発信

山梨県福祉保健部健康増進課から、県内の医療福祉関係の大学や専門学校に啓発パンフレット『ぜひ知ってほしいハンセン病のこと』を配布していると回答があった。このパンフレットは笛吹市春日居郷土館・小川正子記念館にも配布されている。「今後の医療を担う学生達の教材として活用してもらい、ハンセン病を切り口として感染症と人権について理解を深めてもらう一助」とすることを目的に毎年、高等教育機関へ提供している。

また、X(旧 Twitter)、インスタグラム、FaceBook などの公式 SNS を使って、毎年1月最終日曜日の「世界ハンセン病デー」に合わせて国立ハンセン病資料館と春日居

郷土館の案内を行い、県民に向けてハンセン病への理解を定期的に呼びかけている。これらの広報手法は、2020年以降中止されたハンセン病に関する県民向け講演会に代わる新たな啓発方法であることが判明した。講演会が中止された理由について健康増進課は、新型コロナウイルス感染拡大の影響だと答えた。

### (2) 国立施設との連携

笛吹市春日居郷土館・小川正子記念館を管理する笛吹市教育委員会文化財課への聞き取りでは、郷土館のホームページ(<https://www.city.fuefuki.yamanashi.jp/shisetsu/museum/003.html>)の充実と国立ハンセン病資料館などの国立施設とのさらなる連携の強化を目指している途上であるとわかった。

郷土館は小川の遺品やハンセン病史のパネルといった常設展示だけでなく、2002年に「名誉町民小川正子女史生誕100周年記念『悲しき病世に無からしめ』」、2022年に「小川正子と長島愛生園展」といった特別展示が開かれている。これらの展示では、群馬県草津の重監房資料館、東京都東村山市の国立ハンセン病資料館、岡山県瀬戸内市の長島愛生園歴史館などの国立施設から展示資料を借り受けている。

2021年、2023年には郷土館主催でハンセン病をテーマにした講演会が開催されている。重監房資料館の学芸員を講師に招いており、郷土館は国立施設と相互に協力的な関係性を持っていることがわかった。文化財課は今後のハンセン病啓発のために、郷土館のホームページを充実させながら県外施設との連携の維持を課題としていた。

### (3) 課題としての情報発信

健康増進課は、ハンセン病啓発の難しさについて、県民に興味を持ってもらうこと

と回答した。より多くの県民に周知し、関心を寄せてもらうために、「SNSによる情報発信と、感染症と人権について深く理解いただきたい医療・福祉関係の学生に焦点を絞った情報発信の、大きく2つの普及啓発」を行っている」と答えた。

一方、笛吹市教育委員会文化財課は、郷土館のハンセン病啓発のために、療養所や資料館との連携を継続しながら、ホームページ上に小川正子の写真や過去の講演会の動画の掲載を検討中であると語った。今後も国立施設との連携関係の維持ならびに積極的な情報発信に前向きな姿勢を見せた。

#### (4) ヒアリング調査の考察

県の啓発には、県民がハンセン病へ興味を寄せることの難しさ、文化財課からは、県外の国立施設と連携しながら、さらなる情報発信をすることが記念館として取り組むべきことだと判明した。今回の調査を通して、「国立施設との連携」と「情報発信の強化」の2点が山梨県内のハンセン病啓発における課題であると考察し、継続的な啓発を通じたハンセン病の正確な知識の継承可能性を検討した。

「国立施設との連携」に関して、かつて身延町に私設療養所は存在したものの、県内に国立のものはない分、国立ハンセン病資料館や国立療養所との相互交流・関係性の維持が必要である。「情報発信の強化」の面では、1月最終日曜日の「世界ハンセン病デー」を周知する投稿に合わせて国立施設の紹介やイベント告知、小川正子記念館の情報など山梨県公式 SNS からの積極的な発信が一定程度有効である。

これら2つの課題の克服は、継続的なハンセン病啓発に繋がる。啓発に係る山梨県・郷土館と国立施設とのパートナーシップを深化させ、情報発信の強化でより県民

に届きやすい啓発・正しい知識の継承ができる可能性が強まる。

#### 4. おわりに

山梨県では「国立施設との連携」と「情報発信の強化」に注力して取り組むことで、ハンセン病をより広く発信し、県民がハンセン病に関心を持つきっかけを作り出せる。それにより、ハンセン病の正しい知識の継承可能性は高まると考えられる。

本発表を通して筆者が県民に特に伝えたいのは、山梨県にもハンセン病との関わりがあり、県の取り組みや地域資源を有効に活用してハンセン病について人々が正しく理解することこそが差別・偏見問題の捉え直し、ひいては各々の人権意識を問い直すことにつながるという点である。

歴史上の主な療養所や資料館は県内には存在しないが、ハンセン病問題を後世に語り継ごうとする試みは山梨県、郷土館双方に見られる。国立の施設と比較すれば小規模だが、山梨県民には、県内にもこのようなハンセン病との接点が少なからずあることを知ってもらいたい。実際に、ハンセン病の歴史と患者の暮らしぶりを自らの目で見て知ることを勧めたい。

昨今の新型コロナウイルス感染症拡大で感染者に対して差別的な態度が現れたように、感染症差別はいつの時代も起こりえる。ハンセン病を通して、なぜ差別をしてはいけないのか、当事者の立場に立つとはどういうことなのかを考えるのは、現代でコロナ差別が起こったように、終わりの見えない感染症への差別問題から人権意識を深めるといふ今日的な意義がある。

差別・偏見はなぜ問題なのか。本当の意味で理解するためには、差別問題を自分事として捉えることがまさに重要である。

## 参考資料

- ・小川正子(1938)『小島の春』長崎出版
- ・春日居郷土館・小川正子記念館(2002)  
『名誉町民小川正子女史生誕 100 周年記念  
「悲しき病世に無からしめ」—ハンセン病  
患者救済に尽くした女医小川正子の生涯  
—』春日居郷土館・小川正子記念館
- ・厚生労働省(2024)「ハンセン病問題に係  
る全国意識調査報告書」  
[https://pubpjt.mri.co.jp/pjt\\_related/hansen\\_survey/orirfa00000000c7-att/hansen\\_survey\\_20240828report.pdf](https://pubpjt.mri.co.jp/pjt_related/hansen_survey/orirfa00000000c7-att/hansen_survey_20240828report.pdf)  
(2026年3月14日閲覧)
- ・国立健康危機管理研究機構 感染症情報  
提供サイト「ハンセン病一般の方向け」  
<https://id-info.jihs.go.jp/relevant-information/leprosy/20160401/general.html>(2026年3月14日閲覧)
- ・重監房資料館  
<https://www.nhdm.jp/sjpm/>(2026年3月14日閲覧)
- ・人権ライブラリー／公益財団法人人権教育啓発推進センター「ハンセン病患者・元患者やその家族」<https://www.jinken-library.jp/database/list.php?p=task&c=leprosy>(2026年3月14日閲覧)
- ・笛吹市教育委員会文化財課「笛吹市春日居郷土館・小川正子記念館」  
<https://www.city.fuefuki.yamanashi.jp/shisetsu/museum/003.html>(2026年3月14日閲覧)
- ・山梨県福祉保健部健康増進課 難病担当  
「ハンセン病について」  
<https://www.pref.yamanashi.jp/kenko-zsn/kansensyou/hansen.html>(2026年3月14日閲覧)
- ・山梨県福祉保健部健康増進課 感染症担当  
「ハンセン病に関する講演会」  
[https://www.pref.yamanashi.jp/kenko-zsn/kansensyou/r1\\_hansen\\_kouenkai.html](https://www.pref.yamanashi.jp/kenko-zsn/kansensyou/r1_hansen_kouenkai.html)  
(2026年3月14日閲覧)